

# 危機管理マニュアル



南国市立鳶ヶ池中学校

## 基本的な考え方

### (1) 危機管理とは

- 平時において、危機（事件・事故）を未然に防ぐ手段を講じること。
- 危機（事件・事故）が発生した場合に、その被害を最小限に食い止めること。
- 危機（事件・事故）後の対応や措置を速やかに行うこと。

### (2) 危機管理対応上の留意点

- 生徒の生命の尊重、人権の尊重を考えて対応する。
- 学校体制で、全教職員の共通理解のもと、組織として協働で対応する。
- 敏速な対応、状況の把握、的確な判断、報告が重要である。
- 悪い本当の情報こそ最優先に報告する。
- 事前活動（未然防止）を最高の危機管理と認識する。
- 常に最悪のことを想定し、その最悪が起こらないように防止し、回避する。

### (3) 危機管理対応上の留意点

＝危機管理の五原則＝

「最悪」を思って、「慎重」かつ「素早く」

「誠意」をもって、「組織」で対応

# 事故発生時の対応

※ 令和6年5月2日 追記

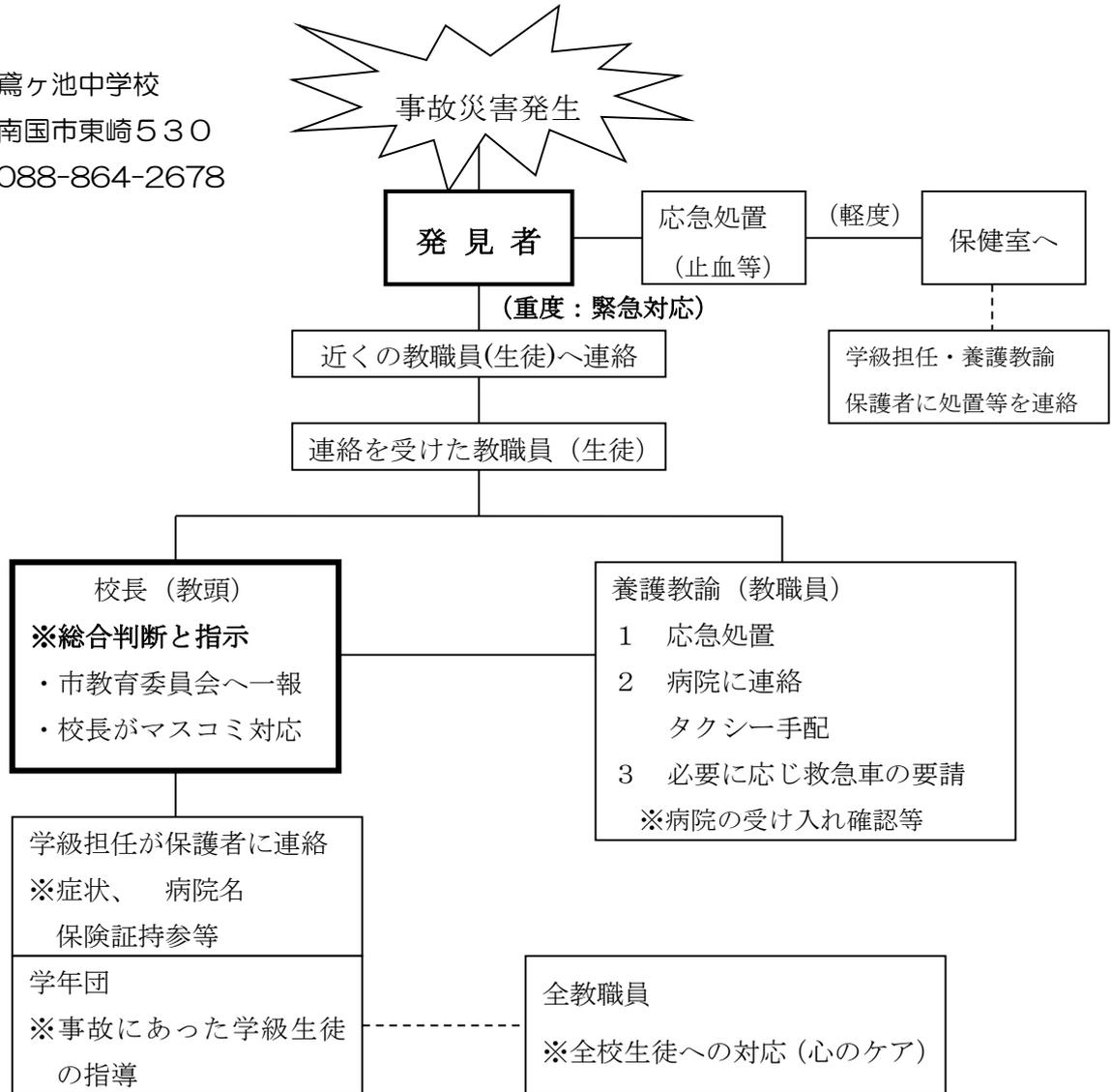
- 1 怪我の確認 → 有り・・・通院不要（保健室へ）  
通院必要（保護者に連絡 → 病院へ）  
（保護者不在、怪我が首より上 → 救急車119番通報）  
無し・・・2へ
- 2 状況確認・・・本人、周囲で見ていた生徒から聞き取る
- 3 情報整理、情報共有・・・管理職、養護教諭、関係学年団
- 4 当該生徒への指導 → 保護者連絡（その日のうちに）  
状況の詳細が確認できなかった場合も、分かっている範囲で伝え、  
後日詳細を伝える（できるだけ早く）。
- 5 経過観察 → 気になることがあれば学年団で共有  
（必要に応じて管理職に報告し職朝などで全体共有）

## 部活動の指導体制について

- ・部活動は原則、顧問立ち会いのもとで行う。  
急な用事等で顧問が立ち会えないときは、顧問が他の教員に見守りを依頼する。
- ・職員会等で、全教職員が部活動に立ち会えない場合は、部活動を休みとする。  
ただし、大会が近い場合は顧問が立ち会い、会の内容は学年団が責任をもって伝える。

事故災害発生時の対応マニュアル

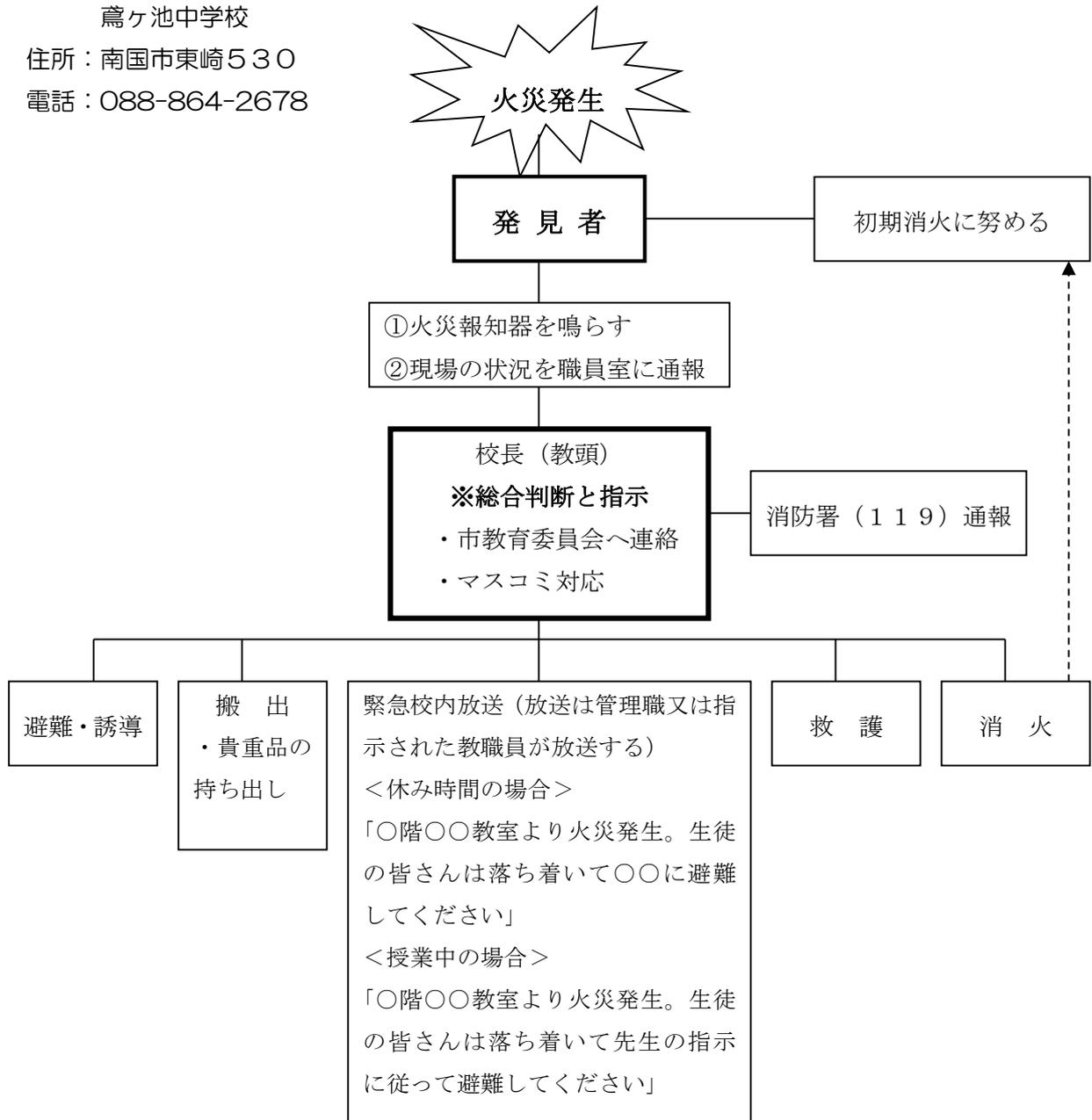
鳶ヶ池中学校  
住所：南国市東崎530  
電話：088-864-2678



- 1 発見者は、事故（けが）の症状が軽ければ、保健室に運ぶ。重症と思われるときには、近くの教職員又は生徒に職員室の教職員・養護教諭への連絡を依頼する。
- 2 養護教諭は、直ちに応急処置を行い、マイライフ（環境調査書）からかかりつけの病院を調べ、電話で受け入れの確認をする。学級担任は、家庭へ症状と行き先の病院名と保険証持参のことを伝え、病院につれていってもらおう。連絡が取れないときは、原則タクシー（タクシー券利用）で移送する。
- 3 養護教諭又は学級担任がタクシーで病院へ移送する場合は、マイライフ（環境調査書）を持参する。治療が長引くときは、途中学校へ連絡する。
- 4 養護教諭不在のときは、管理職、学級担任、他の教職員が対応する。
- 5 緊急の場合は、救急車を要請する。養護教諭又は事故の状況を把握している教員が同乗する。  
※校長（不在の場合は教頭）は、同乗するか、又は即病院に出向く。
- 6 校長は事故報告書を作成し、教育委員会へ提出する。
- 7 新聞社等、マスコミへの対応は校長が行う。（窓口の一本化）  
※ 必ず、分刻みの時間の確認と記録（現場写真を撮影等）を残しておくこと。

# 火災発生時の対応マニュアル

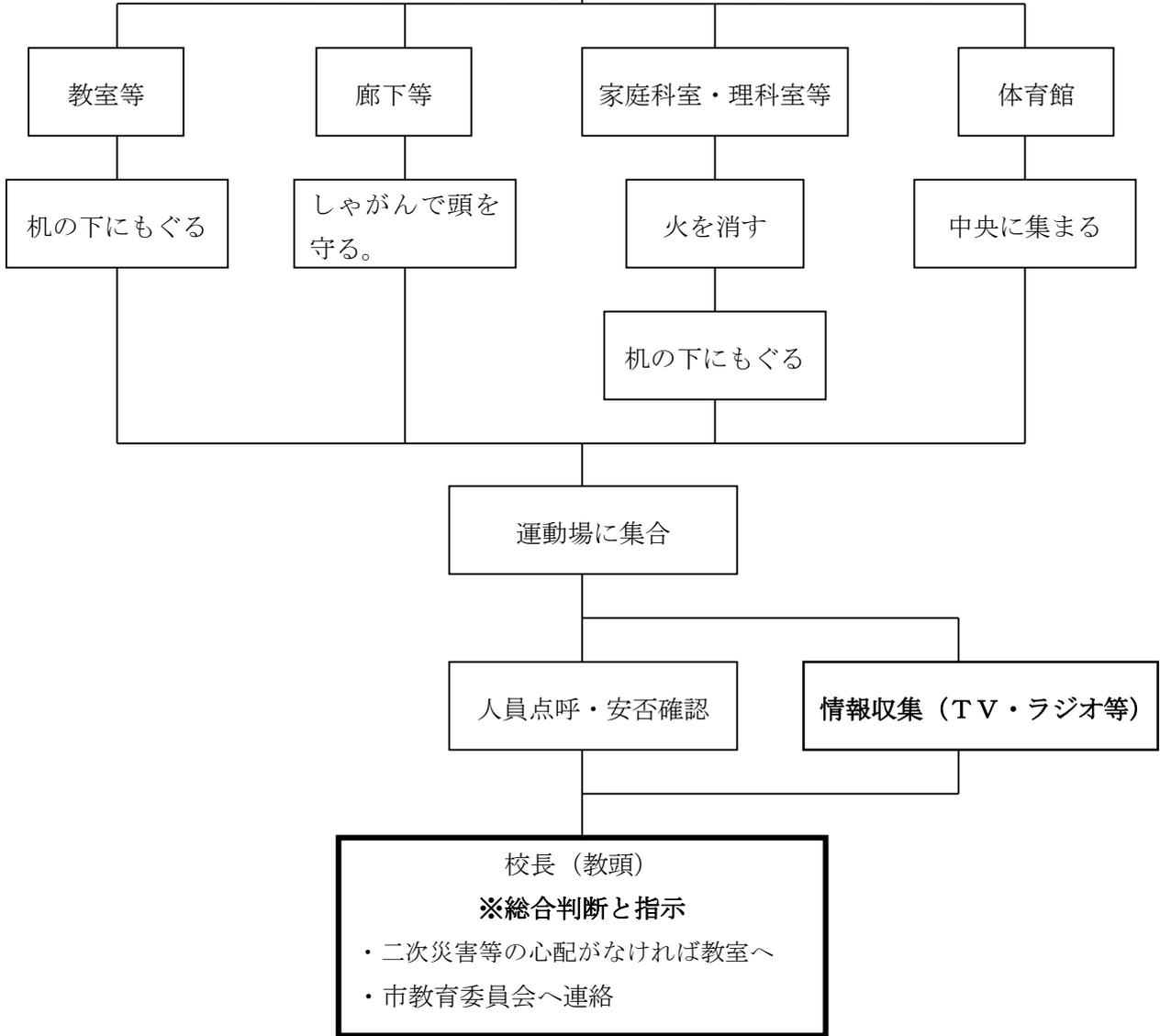
鳶ヶ池中学校  
住所：南国市東崎530  
電話：088-864-2678



- 1 生徒の生命の安全を最優先に考える。
- 2 火災発生場所を正確に把握・報告する。避難経路は、火災発生場所より遠いところを考える。
- 3 第1避難場所は、運動場とする。

# 地震発生時の対応マニュアル

鳶ヶ池中学校  
住所：南国市東崎530  
電話：088-864-2678

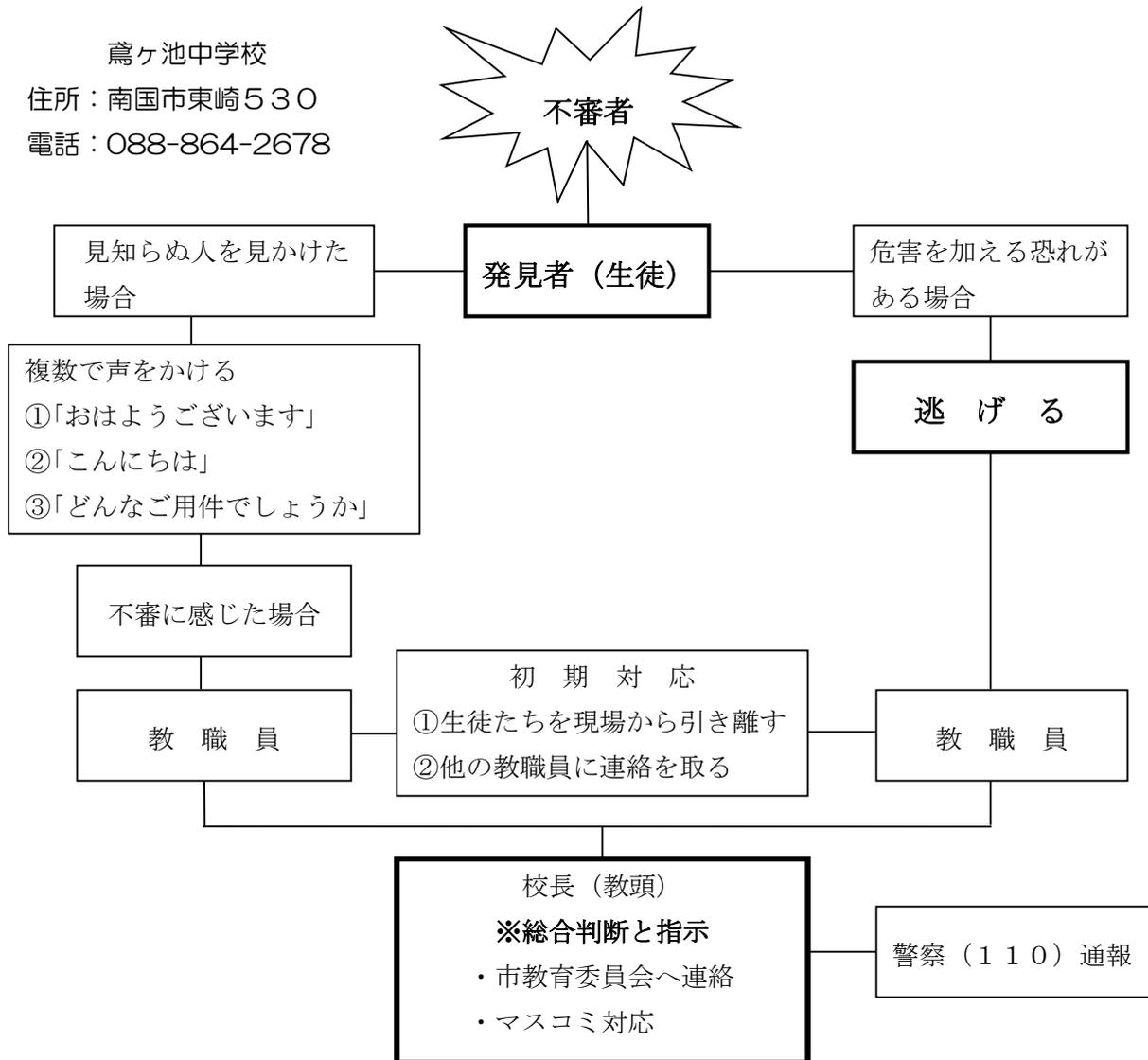


- 1 生徒の生命の安全を最優先に考える。
- 2 火災発生を防ぐ努力をする。
- 3 避難後、津波発生の情報があった場合は、校舎の破損状況等を確認し北舎3階に避難する。
  - ・ 1年：音楽室
  - ・ 2年：生物室
  - ・ 3年：理科室

## 不審者侵入の防止対策（3段階のチェック体制）

- ①校門付近への防犯カメラの設置検討中（校門の施錠が不可能なため）
- ②生徒玄関の施錠（生徒登校後～下校時まで）・のぼり旗の設置
- ③来訪者向け案内・誘導・受付・識別名札等の着用（来客用玄関に設置）

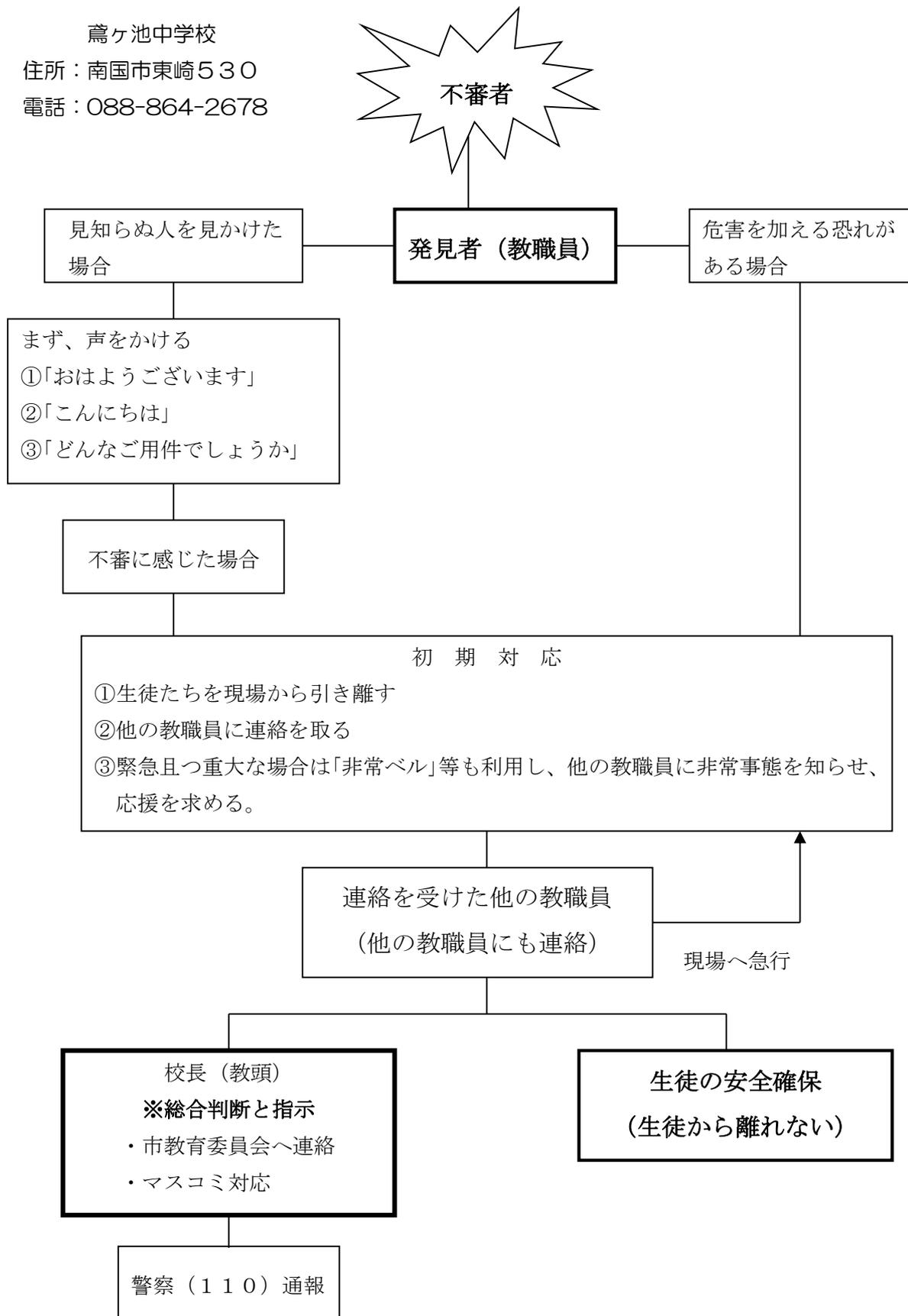
### 不審者侵入時の対応マニュアル I



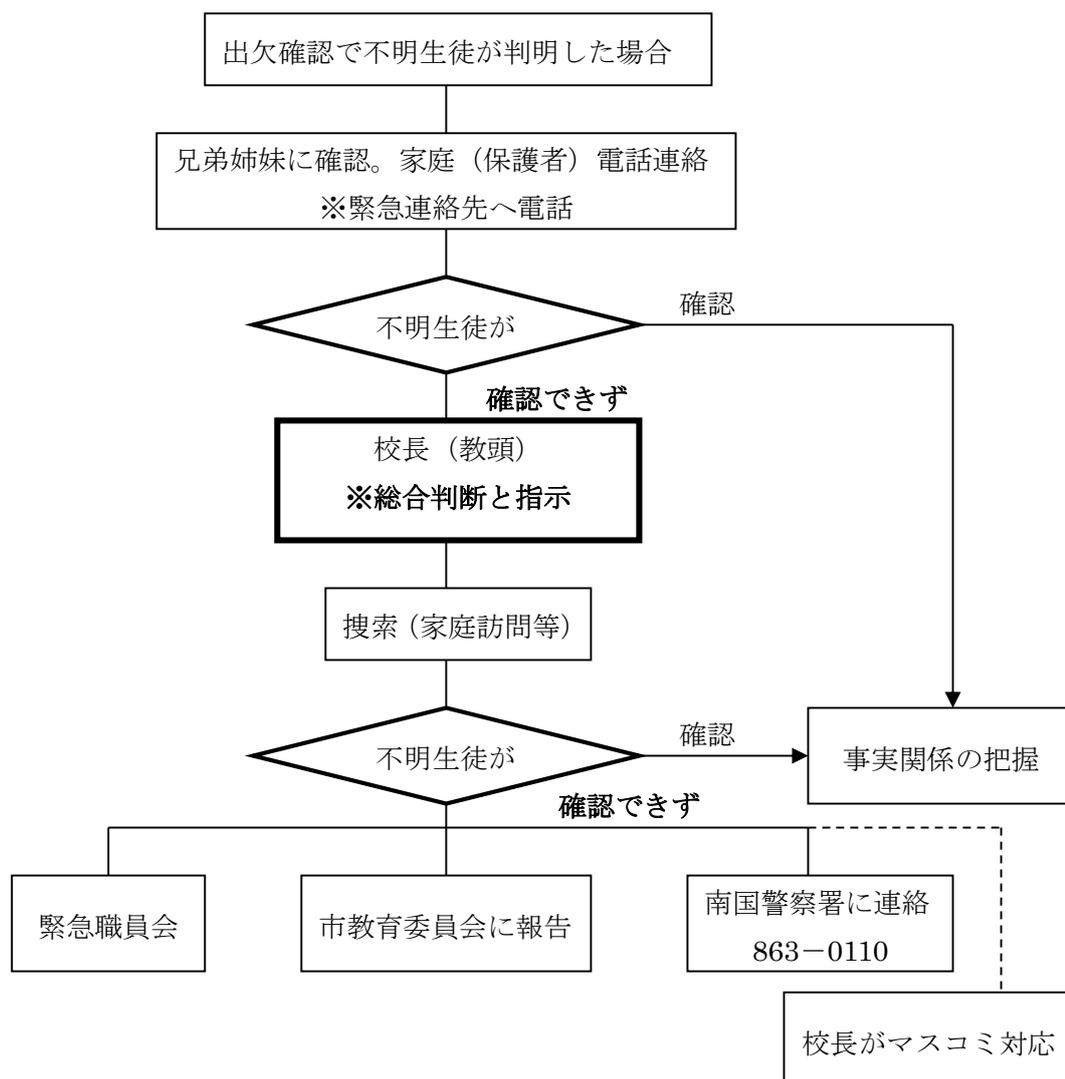
- 1 生徒たちだけの時間（空間）をつくらない。
  - 2 生徒を現場（危険な場所）から逃がすことを最優先する。
  - 3 危害を加える恐れのある人物に立ち向かわない指導をする。
  - 4 緊急参集時の合い言葉「」
- ①生徒が直接管理下（授業中や部活動等）の場合、教員は生徒から離れない。
  - ②生徒が間接的な管理下（始業前や休み時間、放課後）の場合、学級担任は教室等へ
  - ③他の教職員は職員室へ参集し、指示（情報等）を伝達する。

## 不審者侵入時の対応マニュアルⅡ

鳶ヶ池中学校  
住所：南国市東崎530  
電話：088-864-2678

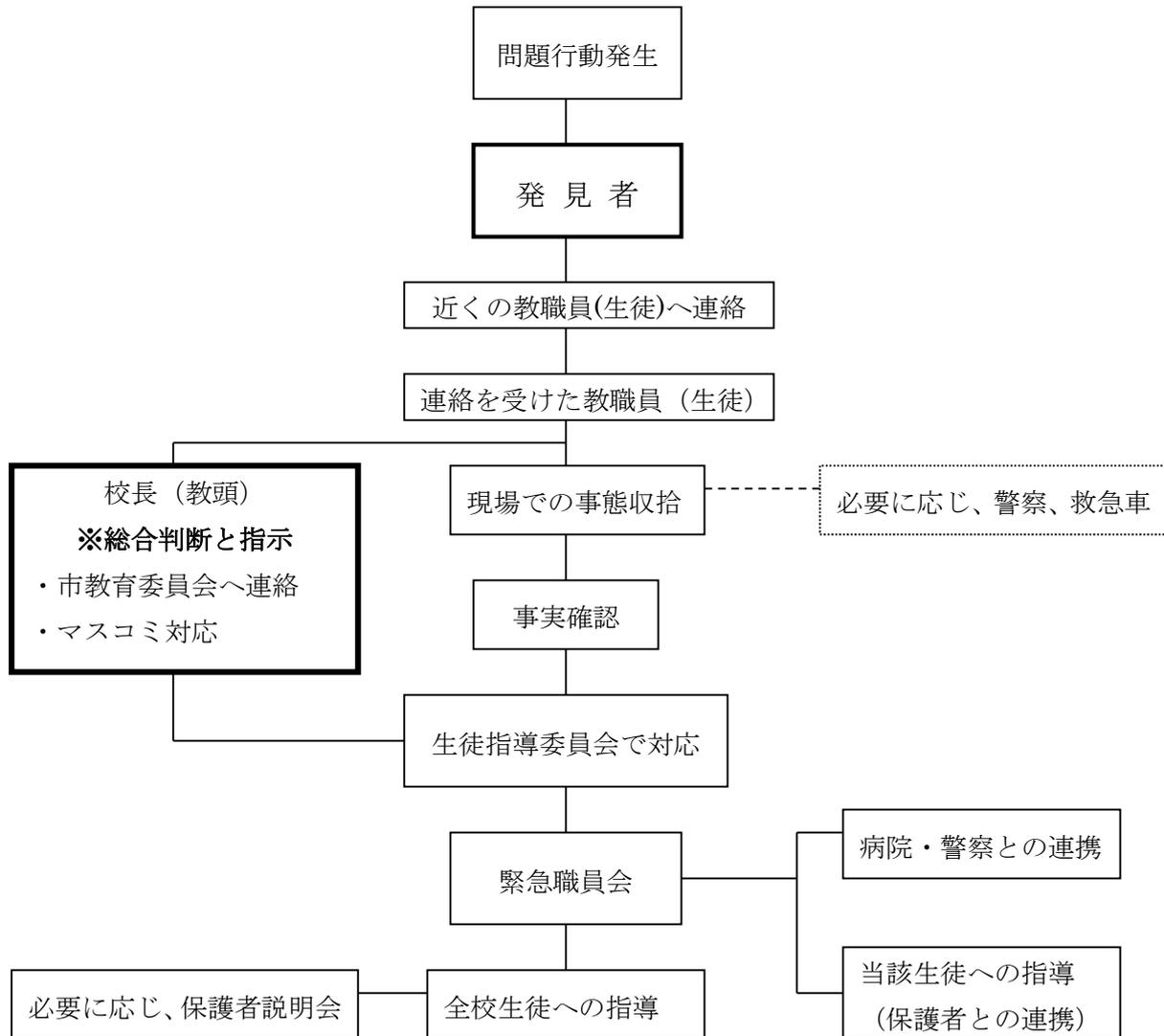


## 欠席届等の連絡がない（不明生徒）時の対応マニュアル



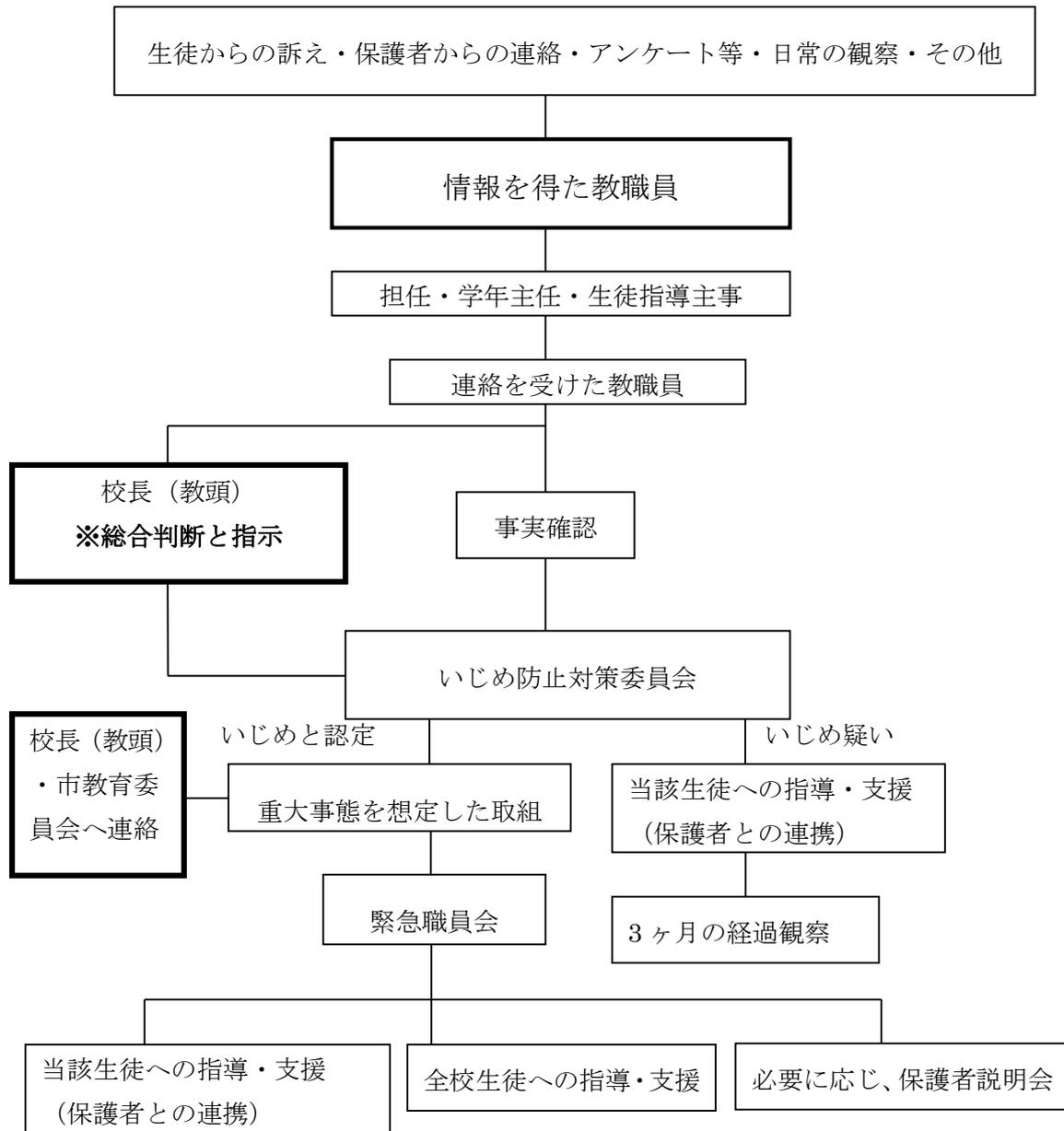
- 1 朝の会で出欠確認をし、不明生徒がいた時には速やかに兄弟姉妹に尋ね確認する。確認がとれない時には、保護者に電話で確認する。
- 2 保護者に連絡し確認が取れた時には、欠席届の連絡のお願いをする。その後、校長（教頭）に生徒の連絡がとれたことを報告する。
- 3 保護者との連絡がとれても生徒が不明のままの時には、校長（教頭）に報告し、複数の教職員が搜索に出かける。当該教職員は、搜索の状況を時々学校に連絡し、校長（教頭）の指示を受ける。発見できた時は、直ちに報告する。
- 4 生徒を発見できない時には、緊急職員会議を開き、対応策を協議する。校長が教育委員会・警察に連絡し搜索の協力を求めるとともに、全教職員で搜索を続ける。
- 5 生徒を発見できた時には保護し、直ちに学校に連れてくるとともに保護者に第一報を入れる。担任は、生徒から経過（家を出てからの状況、理由等）を確認する。その結果を校長（教頭）に報告する。
- 6 今後の対応策を協議するとともに、必要に応じて全校生徒に説明する。

## 問題行動発生時の対応マニュアル



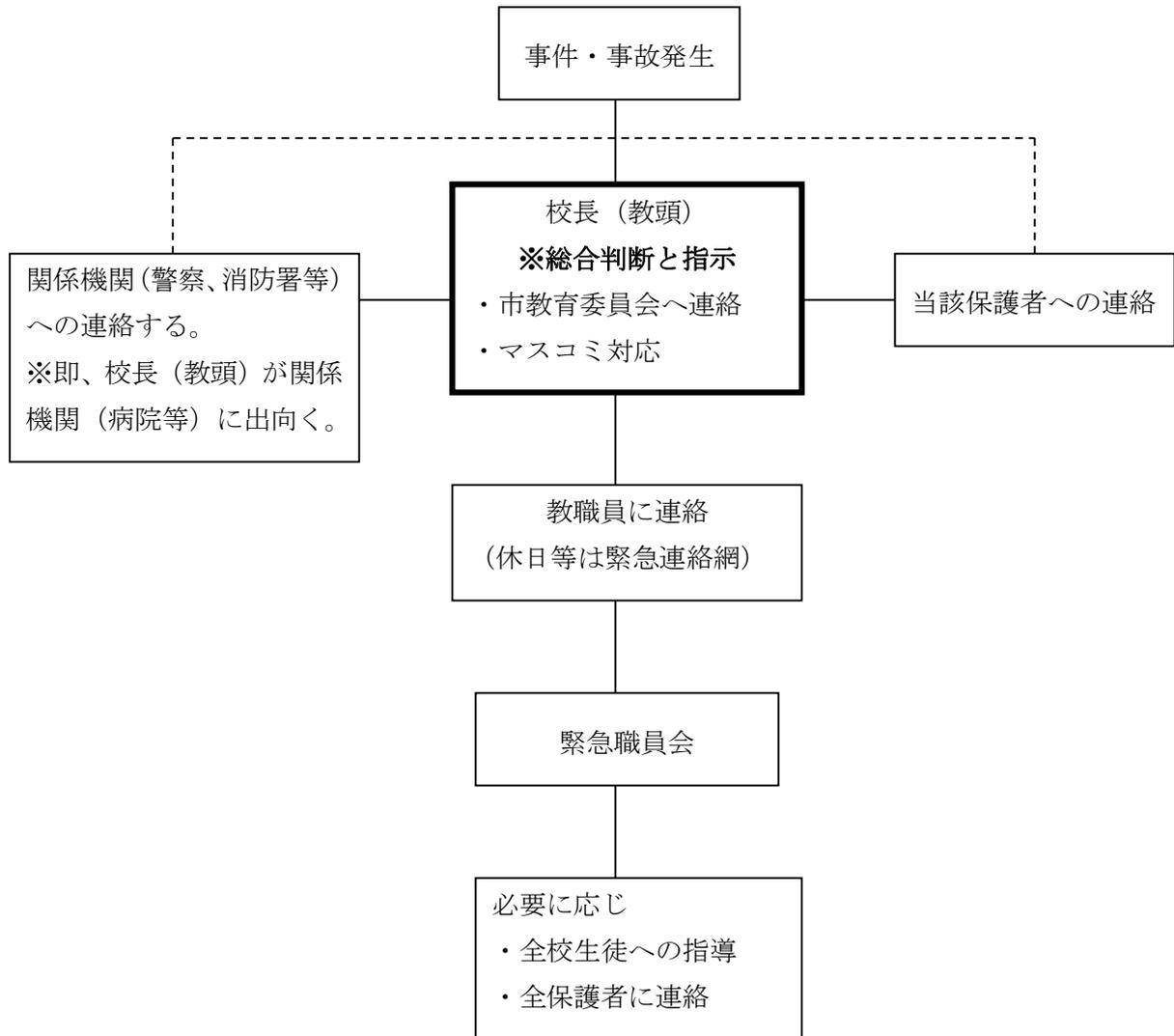
- 1 複数の教職員で現場に急行し、事態を収拾するとともに、校長（教頭）に報告する。
- 2 当該生徒から迅速に事情を聴き、事実関係を正確に把握する。（当該生徒が複数の場合は別々に事情を聴く）
- 3 重大な事件・事故は、速やかに警察等に連絡する。救急措置が必要な場合は、救急車を呼ぶ。
- 4 重大な問題行動に対しては、生徒指導委員会で生徒指導主事が中心となり組織的に対応する。
- 5 職員会議において、校長が事件の状況を説明し、対応方針、教職員の役割分担、今後の日程等について指示する。
- 6 全校生徒への指導においては、混乱を起こさないこと、プライバシーを守ることを基本に行う。被害生徒及び保護者の了解を取っておくことが必要である。
- 7 二度と事件・事故を起こさないための未然防止の在り方について、検討する。

## いじめ（疑い）発生時の対応マニュアル

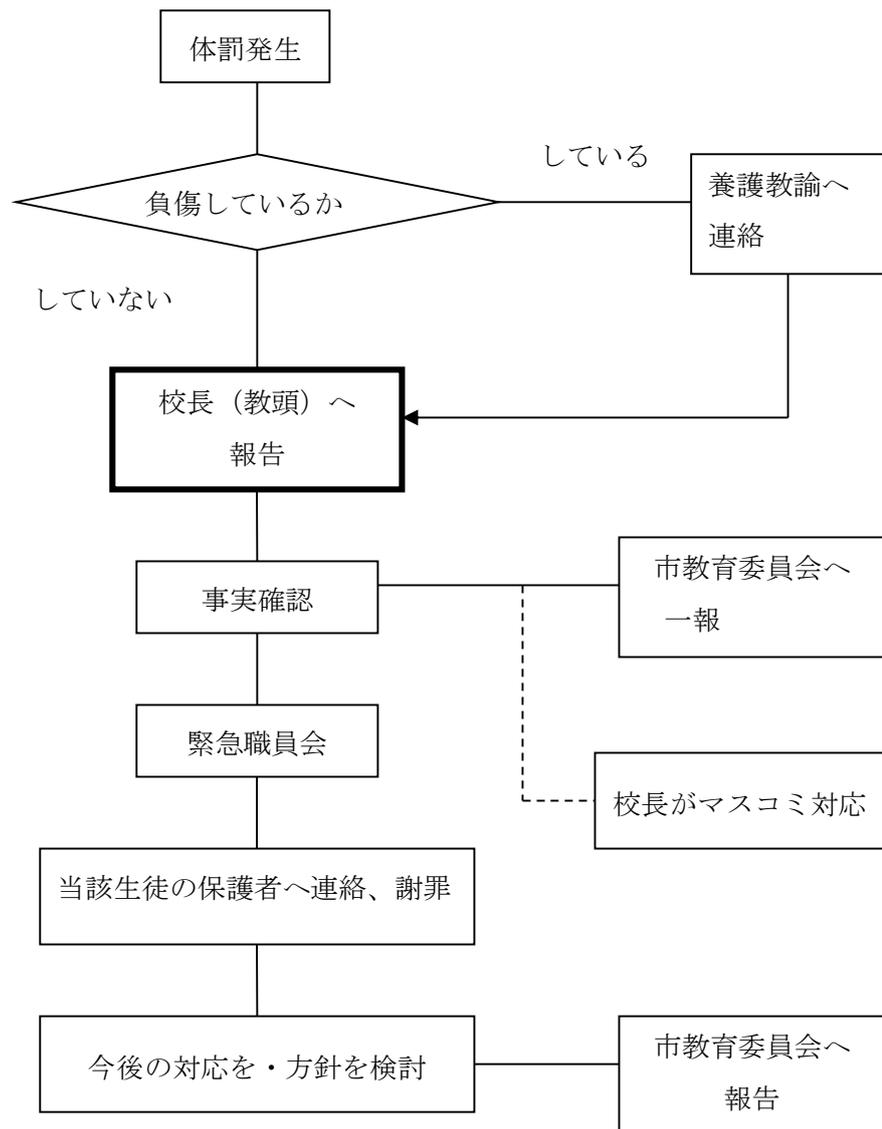


- 1 当該生徒から迅速に事情を聴き、事実関係を正確に把握する。（当該生徒が複数の場合は別々に事情を聴く）
- 2 重大な事件・事故は、速やかに市教育委員会、警察等に連絡する。
- 3 重大な問題行動に対しては、いじめ防止対策委員会で校長が中心となり組織的に対応する（対応方針、教職員の役割分担、今後の日程等）。
- 4 職員会議において、校長が事件の状況を説明し、対応方針、教職員の役割分担、今後の日程等について指示する。
- 5 全校生徒への指導においては、混乱を起こさないこと、プライバシーを守ることを基本に行う。被害生徒及び保護者の了解を取っておくことが必要である。
- 6 二度と事件・事故を起こさないための未然防止の在り方について、検討する。

校外（登下校時）での事件・事故発生時の対応マニュアル  
(交通事故・行方不明・死亡・不審者発見等)



## 教師の体罰発生時の対応マニュアル

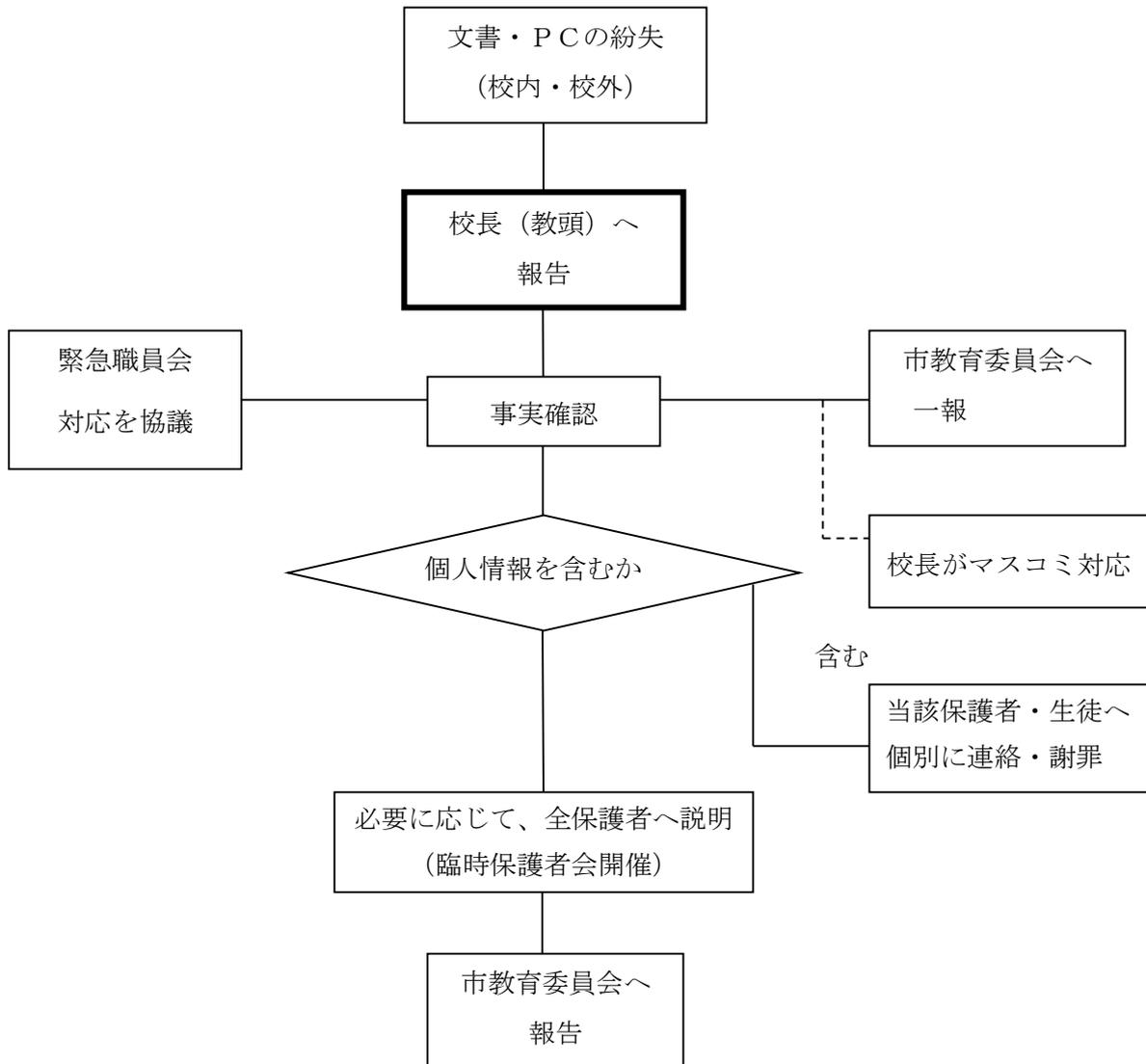


- 1 一人で解決しようと思わず、マニュアルにそった敏速な対応が必要である。
- 2 生徒が負傷したときは、すぐに養護教諭に連絡し、応急手当をする。
- 3 学級担任及び当該教員は、当該生徒の保護者に会い、信頼回復の努力を行う。校長・教頭は必要に応じて家庭に出向き謝罪する。

## 文書・PC（個人情報）紛失時の対応マニュアル

文書・PCは、校外に持ち出しをしてはならない。ただし、校長の許可を得たときは、この限りでない。

※文書とは、学校の職員が職務上作成し、または取得した文書、図面、写真及び電磁的記録（CD、USB等に記録したもの）をいう。



# 応急手当の意義と救命の連鎖

適切な応急手当によって、救命やけがの悪化防止、苦痛の軽減ができます。けが人や急病人が発生したときに重要なのは、その場に居合わせた人（バイスタンダー）による応急手当や119番通報から、救急隊への引き継ぎ、医療機関での治療へとすみやかにつなぐ救命の連鎖

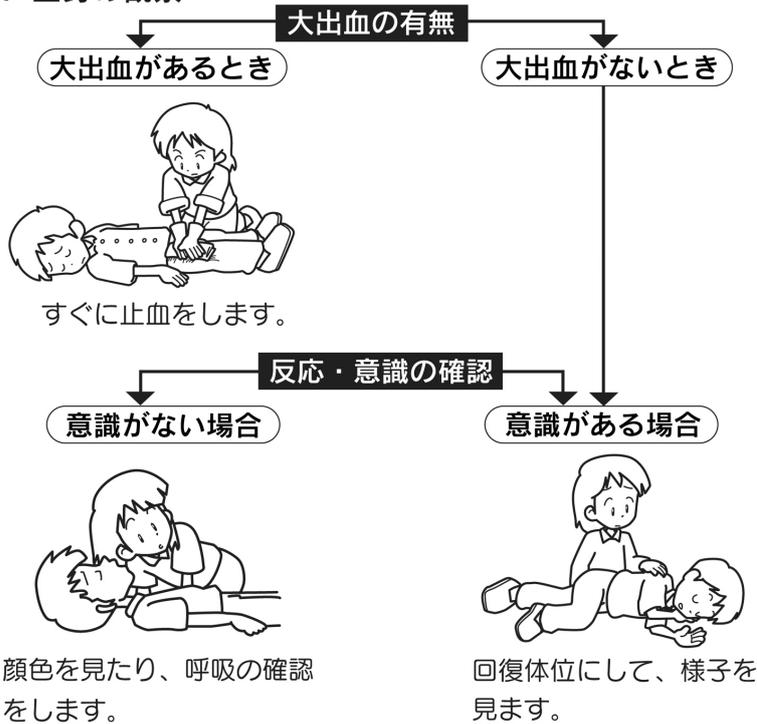
鳶ヶ池中学校  
 住所：南国市東崎530  
 電話：088-864-2678



救急医療情報センター（24時間365日対応）☎088-825-1299

## 応急手当の流れ

1. 発見・周囲の安全を確認（安全でなければ、安全な場所に移動する→二次災害の防止）
2. 全身の観察



- 呼吸をしていない場合**
3. 協力者を求める  
119番通報、AEDの依頼
  4. 応急手当を行う  
気道の確保、心肺蘇生法、AEDの使用
  5. 救急車で搬送  
応急手当の状況を救急隊に伝える

## 救急車の呼び方



落ち着いて119番にかけ、「救急です」と言います。



救急車に来てほしい場所を落ち着いて伝えます。



分かる範囲でいつ・誰が・どのようなようになったかを伝えます。



必要な手当を聞き、通報者の氏名と電話番号を伝えます。



救急車が近づいたら、目立つように合図をして誘導します。

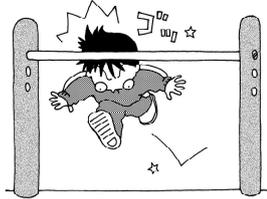


救急隊到着後に傷病者の容態、手当の内容を伝えます。

## 学校で起こりやすい事故の外科的救急処置のポイント

### 打撲

●頭部の場合 … 予想される類似事例 ⇒



- ・ 鋼鉄棒や高い所から転落し頭蓋内出血
- ・ 滑って転倒して、壁や床に強打し頭部を損傷
- ・ 宙返り、蹴り上げなどで失敗して強打し頭蓋内出血
- ・ 振ったバット、投げた砲丸やボールがあたり脳挫傷
- ・ 机やいすから転倒し頭皮を損傷

- ① 声をかける。
- ② 気道を確保する。
- ③ 意識障害がない場合は、頭をやや高くして静かに寝かせる。

### 留意点

- ・ 受傷時意識がはっきりしていても、時間の経過と共に意識障害がでることもある。
- ・ 意識障害がなくても、最低1時間くらいは保健室で安静に休ませ経過をみる。

●胸部・腹部の場合 … 予想される類似事例 ⇒

- ① 衣服をゆるめ静かに寝かせる。
- ② 激しい痛み、腹部の腫れ、頻脈、呼吸が浅い場合は内臓破裂を疑い、救急車を依頼する。

- ・ 横腹を回し蹴りされて腎臓破裂
- ・ 平均台から落下し肝臓破裂
- ・ 素振りのバットが腹部にあたり外傷性すい炎
- ・ 騎馬戦で倒れて、体の上ののられて肋骨骨折
- ・ 防火扉に挟まれて内臓破裂
- ・ 高い所から落下し脾臓破裂

### 留意点

- ・ 外見上かるくみえても呼吸や脈の状態に注意する。呼吸困難や出血性ショックを起こすこともあるので経過観察をする。

### ガラスで深く切傷

予想される類似事例 ⇒

- ・ 走っていて頭からガラス戸に突っ込み頭部切傷
- ・ 押されて体を支えようとし、窓ガラスに手をつきガラスが割れ手首の動脈裂傷
- ・ プロレスごっこをしていてガラス戸に足があたり太ももの血管を断裂

- ① 傷口を圧迫止血する。
- ② 傷口を心臓より高い位置にする。

### 留意点

- ・ 止血帯を巻いた時刻を記録しておくこと。
- ・ ガラスが深く刺さった場合は、血管や神経を傷つける心配があるので、抜かずに周囲を固定し受診する。

### 火傷・熱傷

予想される類似事例 ⇒

- ・ 調理実習でエプロンに火が引火し火傷
- ・ 理科の実験中、アルコールランプが引火し火傷
- ・ 理科の実験で試験管が破裂し薬品で火傷
- ・ 技術、家庭科でハンダコテに直接手を触れて火傷
- ・ お茶の準備中、やかんをひっくり返し、お湯が足にかかって熱傷



① 早く水で冷やす。

- 留意点**
- ・水ぶくれは破らない。(破ると感染をおこしやすくなる)
  - ・衣服を着ているときは、着せたまま水をかけ、無理に服を脱がさない。
  - ・薬品による火傷は、流水でよく流す。
  - ・消石灰、マグネシウムは、水で洗うと熱を発するので粉末を落としてから受診する。

### 手足の指の切断

予想される類似事例 ⇒

- ・技術科の授業中に電動のこぎりで指を切断
- ・非常用のドアで指を挟み切断
- ・裁断機で指を切断

① 傷口を圧迫止血し受診する。

② 切断された指は湿ったガーゼでくるみビニール袋に入れ、更に氷を入れたビニール袋に入れ受診する。

- 留意点**
- ・切断された指は水で洗わない。
  - ・指を入れたビニール袋の中に水が入らないように注意する。

### 歯の脱臼・破損

予想される類似事例 ⇒

- ・廊下を走っていて転倒して、歯を強打し脱臼
- ・野球のノックのボールで強打し歯冠部破損
- ・けんかして殴られ、歯が折れる
- ・体育の準備運動中、前の子の肘があたって脱臼

① 出血がある場合は、圧迫止血する。

② 腫れている場合は、患部を冷やす。

③ 脱落した歯は、生理食塩水か牛乳を入れた容器に入れ受診する。(市販の歯の保存液がある)

- 留意点**
- ・脱落した歯は水で洗わない。
  - ・できるだけ早く受診する。

### 目に物が当たった

予想される類似事例 ⇒



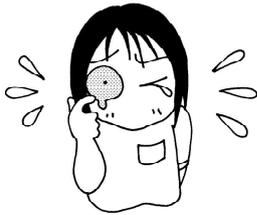
- ・教室で、飛んできた帽子のつばが目にあって角膜を損傷
- ・窓ガラスにぶつかり、割れたガラスが目に刺さってまぶたを裂傷
- ・掃除中、振り回していたほうきの柄があたって瞼皮下出血
- ・けんかをして顔面を殴られ、眼窩底を骨折
- ・階段を駆け上がったところで、反対からきた子と出会い頭にぶつかり打撲
- ・マット上で空中回転をした時、着地の際、自分の膝で強打し眼窩底を骨折

① 傷や眼球の状態を調べる。

- 留意点**
- ・異物が刺さっている場合は、そのまま受診する。
  - ・眼を圧迫しない。
  - ・片目のけがでも両目を覆う。
  - ・コンタクトレンズをしている場合は、無理に外さないでそのまま受診する。

### 目に石灰・薬品が入る

予想される類似事例 ⇒



- ・ライン引きの最中に風が吹き、石灰が目に入り結膜の炎症
- ・サッカーの試合中、ボールをヘディングした際に、ボールについていた石灰が目に入って角膜を損傷
- ・プール底に落ちていた消毒剤を投げられ、目にあたり結膜を損傷
- ・理科の実験中、薬品が目に入って視力障害
- ・砂遊び中に砂を投げられ、目に入って角膜を損傷

- ① 充分すぎるほどの水でよく洗い流す。
- ② 洗浄のあと眼科医に受診する。

- 留意点**
- ・目をこすらない。
  - ・洗った水が、石灰や薬品が入っていないほうの目に触れないように注意する。
  - ・水圧に注意する。
  - ・目薬など点眼しないで受診する。

### ショックを起こしたとき

(顔面蒼白、呼吸が浅く速い、手足の冷感、意識障害)

予想される類似事例 ⇒



- ・昼休みにグラウンドで遊んでいるとき、食物アレルギーによる呼吸困難
- ・弁当のえびを食べたあと、口、喉の周りのかゆみと呼吸困難を併発
- ・下校中、交通事故を起こし内臓破裂による大出血
- ・部活動中、素振りのバットを胸部に強打
- ・予防接種後、激しい嘔吐を繰り返した

- ① 意識の状態をみる。
- ② ショック体位をとり保温する。

- 留意点**
- ・食物依存性運動誘発アナフィラキシーショックの症状には、個人差があるので、注意する。
  - ・呼吸困難や顔のむくみ、喘息発作を起こすことがある。
  - ・ショック症状がある場合には、20分以内に処置が必要となるので、速やかに受診する。

### 性器のけが

予想される類似事例 ⇒

- ・一輪車等で転倒し強打
- ・鉄棒、平均台から落下し強打
- ・側溝に落ちた際、コンクリートで強打
- ・蹴られて強打

- ① 患部を冷やし安静にする。

- 留意点** ・内出血があるかどうかを確認する。

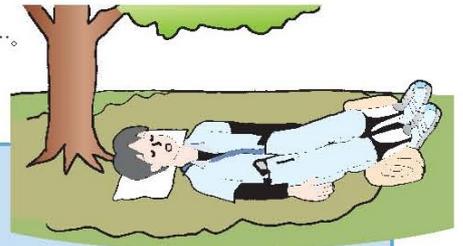


# ●熱中症の応急措置

—あわてるな！されど急ごう応急措置—



熱中症は予防が大切です。しかし、もし熱中症になってしまったら…。万一の場合に備えて、応急手当や必要な措置などを理解しておくことは大変重要です！



涼しい場所に運び、衣服を緩めて寝かせる。  
 次のような症状がみられる場合は、速やかに必要な手当や措置をとる。

**熱けいれん**

大量の発汗があり、水のみを補給した場合に血液の塩分濃度が低下して起こるもので、筋の興奮性が亢進して、四肢や腹筋のけいれんと筋肉痛が起こる。

**熱疲労**

脱水によるもので、全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛などが起こる。頻脈、顔面蒼白となる。体温の上昇は顕著ではない。

**熱射病（重症）**

体温調節が破綻して起こり、高体温で種々の程度の意識障害が起こる。足がつれる・ふらつく・転倒する、突然座り込む・立ち上がれない、応答が鈍い、意識がもうろうとしている、言動が不自然など少しでも意識障害がある場合には、熱射病を疑う。

生理食塩水を補給する。  
 (0.9%食塩水 = 1ℓの水に9gの食塩水)

水分を補給する。  
 (0.2%食塩水あるいはスポーツドリンク等)

すぐに救急車を要請し、同時に応急手当を行う。

回復しないときは救急車を要請!!

足を高くして寝かせ、手足を末梢から中心部に向けてマッサージするのも効果的

救急車到着までの間、積極的に体を冷やす。  
 ☆ 水をかけたり、濡れたタオルを当てて扇ぐ。

**One Point!!**  
 上記に加えて、氷やアイスパックがあれば、頸部、脇の下、足の付け根などの大きい血管を冷やすのも効果的!

※ できるだけ迅速に体温を下げることであれば、救命率が上がります!!

回復しないときは救急車を要請!!

**病院へ!!**  
 吐き気や嘔吐などで水分補給ができない場合は、病院へ運び点滴を受ける必要があります。

**病院へ!!**  
 体を冷やししながら、設備や治療スタッフが整った集中治療のできる病院へ一刻も早く搬送しましょう!!



## 事後対応 ～生徒の心のケア～

### (1)心身の健康状態の把握

校長は、事故・災害等が発生した後、被災した生徒及び事故・災害等の目撃などにより心身の健康に影響を受ける可能性がある生徒(以下、「当該生徒等」とする。)について、各教職員に以下の対応を指示して、その心身の健康状態を把握する。

- 学級担任**:「危機発生時の健康観察様式」を用い、当該生徒等の健康状態を把握する。また、必要に応じ、保護者と連絡をとって生徒の状況等について情報収集を行う。これらの結果については、養護教諭に提示する。
- 保護者等からの情報収集**:学級担任から保護者に「身体状況等調査票」を配布し、記入の上、学級担任まで提出を求める。学級担任は、内容を確認の上、「危機発生時の健康観察様式」とともに、養護教諭に提示する。
- 養護教諭**:学級担任から提示された情報及び保健室を訪れる生徒の状況等を基に、全体的な傾向及び個別生徒の状況を把握・整理し、管理職に報告する。
- その他の教職員**:当該生徒等について注意深く観察し、気づき事項を学級担任及び養護教諭に連絡する。

### (2)トラウマ反応への対応

トラウマを経験した生徒には、下表のように情緒・行動・身体・認知面等にさまざまな反応が現れる。

情緒	●恐怖・怒り・抑うつ ●フラッシュバック	●分離不安・退行(赤ちゃん返り) ●感情の麻痺	●睡眠障害 等
行動	●落ち着きがない ●衝動的(暴力・自傷)	●イライラ ●非行・薬物乱用 等	●集中力の低下
身体	●吐き気・おう吐 ●かゆみなどの皮膚症状	●頭痛・腹痛などの身体の痛み 等	
認知	●安全感や信頼感の喪失 ●様々な対人トラブル	●罪悪感 等	●自尊感情の低下
学習	●成績低下	●宿題忘れ 等	

危機発生直後、強いストレスにさらされたことのある生徒にトラウマ反応が現れた場合は、下記の点に留意して対応する。

- 穏やかに子供のそばに寄り添う。
- 「大変な出来事の後には、このような状態になることがあるけれど自然なことだよ」などと伝える。

→【不安に対して】子供の話(怖い体験や心配や疑問も含む)に耳を傾け、質問や不安には子供が理解できる言葉で、現在の状況を説明する。ただし、子供の気持ちを根掘り葉掘り聞いたり、あまりにも詳細に説明しすぎたりするのは逆効果である。

→【体の反応に対して】体の病気はないのに、不安や恐怖を思い出して体の症状(気持ち悪い、おう吐、頭が痛い、おなかが痛い、息苦しいなど)を訴える場合もある。体が楽になるように、さすったり、暖めたり、汗をふいたり、リラクゼーションを促し、その症状が楽になるようにしてあげる。

→【叱らないこと】不安状態であるときに、子供はふだんできていたことができなくなったり、間違ってしまったりする。それに対して叱られると、不安が増してしまう。このような状態の時は、子供が失敗しても「けがはなかった?」「大丈夫だよ」などねぎらいの言葉をかけて、心配していることを伝えれば良い。

出典:文部科学省「学校における子供の心のケアーサインを見逃さないためにー」(平成26年3月)

## 事後対応 ～教員の心のケア～

### (1)管理職の対応

校長は、事故・災害等が発生した後、自身又は家族が被災した教職員及び事故・災害等への対応に当たる教職員について、過度のストレス状況避けるなど心の健康に配慮するため、例えば以下の対応を検討する。

- 被災した教職員に、現実的な配慮を行う。
- 学校が避難所になった場合は、速やかに管理を行政に委ねる。
- 報道対応の窓口を一本化する。
- 不要不急の業務を判断し、教職員の業務分担を見直したり、応援を依頼したり、臨時の人員配置などを検討する。
- 事故・災害等への対応は、チームを組んで当たる体制を取る。
- 教職員の心の健康に関する研修会を実施する。
- 状況により、心の健康に関するチェックを行う。
- 休みを取ることが本人の不利にならないように配慮する。

また、一日の活動の終わりに教職員間(必要に応じてスクールカウンセラー等を交える)で、その日の活動を振り返る時間をつくり、自由に安心して話せる環境下で、子供に関する情報共有と自分の体験やそれに伴う感情を語り合う機会を設ける。

### (2)教職員の対応

教職員は、事故・災害等が発生した後に生徒への適切な支援を行うためには、自身の健康管理が重要であることを理解して、以下の点を心がける。

- 個人のできることに限界があることを認識し、一人で抱え込まない。
- ストレスに伴う心身の不調はだれにでも起こることを認識して、相談・受診をためらわない。
- リラクゼーションや気分転換を取り入れる。

さらに、自ら及び同僚の心身の状態を注意深く観察するとともに、その不調をできるだけ早期に発見して休息や相談につなげるよう努める。

危機発生時の健康観察様式

年 組 氏名

(記入者: )

調査項目 当てはまる場合、日常欄・ 危機発生時欄に○印を記入	要 配 慮 者	日 常	危機発生後			
			月 日	月 日	月 日	月 日
生徒の訴え	食欲がない					
	眠れない					
	眠気が強い、うとうとする	て				
	体の痛み(頭、お腹が痛い等)					
	吐き気がする					
	下痢をしている					
	皮膚がかゆい					
	家に帰りたくない					
	学校に行きたくない					
	怖いことや心配事がある					
観察される状態	落ち着きがない	自				
	ぼんやりすることが多い	て他				
	イライラしている	自て他				
	元気がなく、意欲が低下している					
	ハイテンションである	自				
	余り話さなくなった					
	物音に過敏になる					
	人が違ったように見えることがある	知自て他				
	こだわりが強くなる	自				
	発作の回数が増える	て				
	パニックの回数が増える	自				
	体重減少あるいは急激な体重増加					
その他	薬の服用ができていない	知自て他				
	いつもの様子と違う(記述)					

①「日常」欄には、日頃の様子を思い出して当てはまる項目に○印を記入。「危機発生後」欄には、危機発生後に観察し、日付を記載した上で、当てはまる項目に○印を記入。

②要配慮者欄に以下の記号が入っている項目については、下記に該当する生徒は特に注意深く観察する(障害に応じて出やすい症状や変化に注目した項目であるため)。

知:知的障害      自:自閉症      て:てんかん      他:その他の疾患・障害

③項目以外でも、いつもと違う様子があれば「その他」欄に記録する。

④「日常」欄と「危機発生時」欄を比較し、○印の数に大きな変化が見られる場合は、特に注意が必要。

⑤結果については、養護教諭に提示する。養護教諭は全体的な傾向や個別の情報について管理職に報告の上、関係教職員で対応について検討する。

事故・災害等発生後の身体状況等調査票

保護者またはご家族が記入し、月 日までに学級担任に提出してください。

記入日 令和 年 月 日

学年		組		生徒氏名			
記入者(○印)		父 ・ 母 ・ 祖父 ・ 祖母 ・ その他(続柄を具体的に:_____)					
生徒の様子		1 ない	2 あまりない	3 少しある	4 とてもある	3、4に○印をつけた場合、 具体的な様子	
a	食欲がない。	1	2	3	4		
b	眠れない。怖い夢を見る。 夜中に何度も目が覚める。	1	2	3	4		
c	おねしょなどの退行現象がある。 (指しゃぶり・甘え・赤ちゃん言葉など)	1	2	3	4		
d	学校に行きたがらない。 外出したくない。	1	2	3	4		
e	よく泣く。 小さな音にも敏感に反応する。	1	2	3	4		
f	頭痛や腹痛(おう吐・下痢)を 頻繁に訴える。	1	2	3	4		
g	その他(災害前と比べて変わった様子、気になる様子など)						
ご家庭の状況(家族・親戚や自宅の被害状況、災害による保護者の仕事への影響など、差し支えない範囲で)							
その他気になること(地域の状況、ほかの生徒のことなど)							